

講師のひとりごと

「娘は悪魔」

研修講師という立場で仕事をしていると、立場上自分の子供もきちんと躾なくてはならないと思います。しかし、実際は猫可愛がりや、甘やかしてしまっています。三歳くらいになってきますと、表情や言葉、ちょっとした駆け引き、そして親の知らないことも沢山学んでいくようにして・・・今年のお盆休みに家族でドライブした時のことです。その日は真夏日で、道の駅で食事を取り、車に乗ろうとすると、完全に蒸し風呂状態。クーラーを全開にしようと、私は運転席、妻は助手席、その後ろに義母、娘は私の後ろの席に乗せました。その時、すべての窓を全開にし、空気が

の入れ替えをしようと思ったのですが、後ろの娘から「窓を開けてよ」と催促がありました。窓ガラスが完全に取納されたないタイプのようから、ボタンを押しても完全に下から開かない状態でした。「これ以上は下から開かない」と伝えましたが、理解できないのか何度も下げるよう要求してきて、わんわん泣き始める始末。そこで聞き分けた娘のスイッチが入りました。突然、三歳児の声とは思えないような叫び声で、私の後頭部を殴りました。「開けるって言ってんだろっ！何やってんだっ！お父さん！開けるよっ！早くしろよ！」恐ろしい怒るバグミラーを覗き込むと、真後ろの席で顔を真っ赤にしながら怒鳴り続ける娘。凄まじい迫力に、私は完全に引いてしまいました。テレビの影

響か？妻の教育か？精神的に問題があるのか？悪魔に取り憑かれたのか？思わず妻の方を見ると「魔の二歳児・悪魔の三歳児・天使の四歳児って言うからねえ」と冷静なものです。二歳児はイヤイヤ期、三歳児は自己主張が強くなるのですが、私は知らないものです。仕事上でも知っていれば冷静に対処出来るのに、知らなければ焦って取り乱すことがあります。冷静に対処するためにも、何にでも興味を持つことが大切だと感じる今日この頃です。

編集後記

朝晩の気温の変化や空の高さ等、秋の気配も感じられる今日この頃ですが、秋と言えども思い浮かべるのでしようか。読書の秋、スポーツの秋・・・秋は過ごしやすく天気も安定しているのが色々なことに集中して取り組む事が出来ると思われる。夏（六月二十一日頃）を過ぎると日の出の時間が少しずつ遅くなり日没の時間も少しずつ早くなりだんだんと夜の時間帯が長くなります。立秋（八月七日頃）を過ぎて秋分（九月二十三日頃）も終わりを告げるとまさに「秋の日はつるべ落し」。午後七時頃でも明るかった夏に比べると格段の違いです。そんな秋の夜長を有意義に過ごそうと、古代の中国では、「灯火（とうか）親しむべし」という言葉が広まりました。これが現在の「読書の秋」といわれる所以となったようです。秋の夜長に、読もうと思ったいた書籍を手に取ってみてはいかがでしょうか。

お契め図書のコーナー

『ビジネスフレームワーク図鑑』 著 株式会社アンドン

ロジックツリーやSWOT分析、動機付け・衛生理論等々、仕事をやる上で一度は耳にしたことがあるビジネスフレームワーク（思考の枠組み）ですが、改めて使おうとするとなかなか使えぬ良いか分らない、実はよく知らないという人もいます。『ビジネスフレームワーク図鑑』は、問題発見・分析・アイデア出し等の様々な場面で使えるフレームワークを七十点、図や記入例を交えて分かりやすく紹介しています。普段から使用しているようなものから、初めて耳にするようなものまで、用途ごとに分かれていますので、アイ

デアが出なくて困っている、会議がまとめられない等の悩みを抱えている人にとっては非常に助かる一冊です。一点のフレームワークにつき、二ページずつ紹介されているので、フレームワークにあまり関わりがなかった方、言葉は知っていたけどいまいまさら聞けないという方は、この一冊があれば入門としては十分だと思えます。

経験と実績から、潜在能力を発揮する為の三つのステップについて事例を交えて紹介しています。その為、いかにメンタルが結果に対して重要なのか、「思い込みのフタ」が本来の実力を出せなくしているのかが分かります。著者はスポーツメンタルコーチの為、事例はアスリートが対象ですが、ビジネスの場面でも置き換えられるものが多々あります。人前に出るとあがってしまいうまく話せない方、部下が目標に対して前向きに取り組まなくて困っている管理者にとっても参考になる一冊です。目標設定や、モチベーションの管理も含めてメンタルコントロールについて学びたい人には是非お勧めの一冊です。

『一流をめざすメンタル術』 著 鈴木 颯人
スポーツの世界で集中力が増した状態の「ゾーン」や「火事場の馬鹿力」等、人間には時折思いもよらない潜在能力を発揮する時があります。この本は著者がこれまでのメンタルコーチの

閃光

令和元年長月号



「インターンシップ」

今回、インターンシップで大学生を二名受け入れることにしました。私の学生時代にもインターンシップという制度はあったものの、認知度は低く、参加する学生もごく一部でした。今はなんと七十%以上の学生が参加しているそうです。弊社は何年か新卒採用をしておらず、学生と社員との年齢差も開いてきているので、学生へのPRと、学生からの新鮮な刺激を受けることを期待して、受け入れることにしました。いざ面接にやってくる学生は、とてもまじめで教育の業界に興味がある、いろいろな会社を見てみたいというのでした。早速弊社の若手社員が二人のインターンシップのメニューを作り、初日は社員紹介をしながら始まり、緊張しながら、でも物怖じしない学生の様子を見て意外とたくましいなあ、と感じさせられました。今は何でもネット上で情報を得る時代ですが、社内の雰囲気や、会社の良さ、悪しは実際に訪問して話を聞いてみないと分かりません。

インターンシップという制度は学生、企業側双方にとってメリットがあると感じました。二人には期間中、いろいろなことを経験してもらい、見て、聞いて、実際に感じるほしい。五日間という短い期間ではありますが共に実りある時間にしていきたく考えています。

ビジネス教育訓練所株式会社

代表取締役社長 高谷 愛美

管理者特訓六日間合宿

七月十三日(土)～十八日(木)

昨年の七月の管理者特訓は、連日三十度を超える灼熱の暑さの中行われました。今年は小雨がずずと降りしきる中で研修が行われました。昨年は連日日差しが照りつける暑さの中で訓練が行われた事もあり、皆が連日へとへとになりながら訓練に取り組んでいました。今年には暑さは無く、むしろ入れるという状況で、昨年の訓練生に比べると、体力面での苦労はありませんでした。

それ以上に今回の訓練生は、回結力がありませんでした。管理者コースだけでは無く、ビジネスコースとも積極的にコミュニケーションを取り組んでいました。そのため苦労も充実感を感じている訓練生が多く、ある訓練生は「厳しいと聞いてきて、着替えも相当持ってきたが、毎日学びで楽しめた。メンバーにも恵まれた」と言っており、訓練に対して極めて意欲的に取り組んでいました。ビジネスコースの修了式の際に、



研修の様子

管理者コースの訓練生を代表して挨拶してもらいましたが、涙でスイッチが出来なくなる等、心の底から深い絆を感じ、その訓練生も涙を流していました。訓練に意欲的に取り組んだ事もあって、皆壁にはぶつかったものの、一つ、又一つと壁を乗り越え、延長二日目までに全員が修了しました。規定内で修了した訓練生は、研修終了後職場に戻ってから早速三分間スピーチを実施し、その様子を見たと上司は、成長を肌で感じたそうです。また、学んだ事をより職場で反映してもらったためにも、当社の営業マンが実地に赴き、早速アドバイスをしたりしました。私共も全力で貴社の発展をサポートします。研修に参加された皆様の今後の奮闘を期待します。

参加者の声

今回研修に参加させてもらい、有意義に過ごす事が出来ました。課長から大変だぞと聞かされましたが、研修中は楽しく過ごせました。一緒に参加したメンバーに恵まれたおかげだと思います。やはりチームワークは改めて大事だと気付かされました。夜間歩行訓練が一番印象深いです。露雨の中始まり、皆でおにぎりは分けて食べようなど作戦を立てて挑み、助け合い支えながらゴール出来た時は本当に嬉しかったです。

“情熱を持って、並外れた情熱を持ち続ける事が人を動かす最大の武器だ。” この言葉を胸に秘め会社に戻って今後に活かしていきたいと思えます。六日間という短い間でしたが、僕の人生の大きな財産となりました。お世話になりました。本当にありがとうございました。

「スピーチはテクニク」研修講師をやっている、仕事柄話の内容が相手へうまく伝わるようにと、スピーチの技術を常に磨いています。しかし、訓練生のスピーチを見ていくと、スピーチはテクニクだけではないと常々思われます。

実際に、スピーチの勉強をするとは様々なテクニクを見つけて、次はこれを使ってみよう、あれを使ってみようと思うもの、そのテクニクを使った時は大抵面白みが無く引き付けられないスピーチになるものです。スピーチにかなり台本を作り準備してきたにもかかわらず、引き付けられないスピーチもありません。

「伝えよう」ではなく「うまくやろう」という気持ちで先行している為、それが感覚的に相手にも伝わり結果的に引き付けるスピーチになりません。

先日、ある研修で二日の最後にベアの人の良いたところを周りに紹介してもらいますから良く聞いて下さい」と事前に見え、夜にそれぞれスピーチをしてもらいました。すると、これまでスピーチに対して苦手意識を持っていた訓練生や「えー」「あー」が多くて聞き取りづらく話しかけていた人も含め、ほぼ全員が普段以上の力を発揮して非常に盛り上がりました。

この事から、「人の為」と本心に気持ちが入った時には誰でも心を打つスピーチが出来るのだと実感させられました。

本心に気持ちが入った時、自ずとテクニクは知らなくても素晴らしいスピーチが出来ます。また、自信を持つことも大切です。良い事を言うだけでも自信が無さそうでは伝わりません。是非皆さんも人前に立つ際には、「伝えよう」という気持ちで引き付けるスピーチをしてみて下さい。

ビジネス特訓四日間合宿
七月十三日(土)～十六日(火)

梅雨明け前の過ごしやすい七月中旬、ビジネス特訓四日間合宿が開催されました。今回は福祉・介護、不動産業、分析業があり、参加者は二十代前半から四十代まで幅広く年齢層でした。中には上司から研修に参加するよう言われていたが、六年ほど断り続けていた若手社員もいました。

初めは後ろ向きな訓練生もいましたが、始まってしまえば覚悟を決めて取り組んでおり、特にビジネス十箇条審査の暗唱練習は、訓練生全員が早朝から施設内に響き渡る声で行う等、真剣に取り組み姿が見られました。

今回は好きなミュージシャンと同じという訓練生が複数名いたこともあり、食事の時間にはその話題で盛り上がり、それをネタに話を広げる人がいて和気藹々とした空気がありました。



研修の様子

り、厳しい訓練を乗り越め、厳しい訓練を乗り越めるものへと変えていきました。二日目の審査は合格者がいなくなったものの、三日目に合格者が出るのと続けばかなり、皆の勢が高まりました。合宿訓練最終日には、皆が規定内卒業できるような一つに審査に臨みました。苦しみながらも集団力を切らず着実に歩を進める人、合格を目前にしながら集団力を切らしてしまおう人、諦めてしまおう人が変わってしまいました。

規定内で卒業出来たのは二名でしたが、延長は訓練生に対し「明日は必ず合格できる！」と励ました。言葉は掛けていませんが、延長一日目の朝、重たい空気の中行われたビジネス十箇条審査でした。訓練生がブルシャッを跳ね除け合格すると泣き崩れ、他の訓練生は自分のことをように喜び、そして讀める姿が印象的でした。その後、全員が延長一日目で卒業となりました。その姿が、流石な訓練生を見て思わずこみ上げてくるものがあります。「感動は伝染する」と思われる特訓でした。

今回は、北は青森、南は群馬まで、主任から部長まで幅広い階層の管理者が集い、研修が行われました。今回は各個人が性格や仕事に関する姿勢が鮮明に違いとして現れ、刺激の多い実践合宿となりました。

一人が二時間遅れての到着となり、波乱の幕開けでしたが、その訓練生も最初は皆との距離感があつたものの、徐々に輪の中に溶け込み訓練に参加しました。

褒め方の訓練で、ある訓練生は褒めていても嬉しなかったが、慣れていない事もあって、顔が強張っていました。一方、叱り方は静かなながらも迫力のある叱り方を、職場での様子がありありと浮かんでくるようでした。

又、もう一人の訓練生はなかなか感情が表に出ないために、褒め方、叱り方共に苦戦しました。普段も仕事は一生懸命なのですが、あまり感情を表に出す事が少ないようでした。その点が露呈しました。

最後は苦悶に修了スピーチを行ってもらいましたが、皆自分が如何に管理者者として未熟であったかを痛感し、今後頑張っていくかを力強く宣言していました。「言うは易し、行ふは難し」で、職場に戻ってからの勝負です。なかなか実行に移せない訓練生には、研修後に講師から激励の電話を入れたりしました。講師も活躍を期待しています。どうか強い信念を持って職務に励んで欲しいと思います。

管理者実践四日間合宿
六月十七日(月)～二十日(木)

読書の「ススメ」

研修で「読書」の重要性について話しますが、日頃勉強が必要な管理者でも、月に1冊も本を読まない人も多くいます。研修の時は「今後は本を読みます」と皆意気込むのですが、いざやってみると挫折する人が多いようです。そこで今回は、本の選び方について書いていきます。「読書の秋」に是非活かして下さい

ポイント1 興味を持った本を選ぶ

まず重要なのは、本を読もう、知識を得ようと思う事です。そのために、日頃自分が何に関心があるかを知る事です。「カラーパス効果」という現象がありますが、人間は自分が気になる事、情報に対しては敏感になる傾向があります。例えば、普段から若手社員の指導について悩んでいる場合、本屋に行くと「若手社員」や、「指導」というタイトルの本がどうしても気になります。「世界経済」とあっても、自分の関心外なので入ってきません。書店に行って迷ったら、気になるワードの本をドンドン引っ張り出してみる事です。

ポイント2 本の厚さや著者にこだわらない

分厚く偉大な著者の本でも全く学びが無かったと思う事もあれば、薄くても、今後の人生のバイブルになる本さえあります。本に慣れていない人は、平易で読みやすい本、できるならページ数も少ない本を読む事です。最初は読んだという実績も大事。1冊本を読むと、普段本を読まない人、苦手な人にとっては、自分も読めると自信に繋がります。

ポイント3 精読しない

本を読めない人が多いのが「精読」する人です。一文字一句正確に読むため、却って内容が頭に入っていないのです。一文字間違ったり飛ばしても、内容が大きく変わるわけではありません。大意を掴めれば良いのです。まさにざっと見るという感覚で取り組む事です。

最後に、「継続は力なり」という言葉があります。読書してすぐに成長しませんが、十年後の栄養になります。秋の夜長に、本を読んでみてはいかがでしょうか。

— 中村天風 —

九月研修のご案内

■ビジネス特訓四日間合宿
九月十三～十六日

ビジネスの基本動作を知っているが、いざやってみると出来ない人が多くいるのが事実です。ビジネス特訓では、社員としての基本である礼儀礼節やコミュニケーション、チームワークについて審査を交えながら体得してまいります。延長制度も設けております。

管理者特訓六日間合宿

■管理者特訓六日間合宿
九月十三～十八日

管理者としての考え方を徹底的に鍛え、魅力あるリーダーを養成します。部下の心を掴み、かつ進むべき方向を指示する事が出来る、また自ら率先垂範して行動出来る管理者を育てます。

十月の研修のご案内

■営業マン特訓五日間合宿
十月三日～七日

■マイ実務三日間合宿
十月十五日～十七日

■管理者実践四日間合宿
十月十五日～十八日

精読審査や部下育成スピーチ審査、論争や三十キロ夜間歩行など、多彩なカリキュラムで総合的に鍛えます。



信念、それは人生を動かす
羅針盤のごとき尊いものである。
従って信念なき人生は、
ちょうど長途の航海の出来ない
ボロ船のようなものである。